

第12回 講義メモ 生徒文化（子ども文化）について

今回のテーマは 「生徒文化（子ども文化）について」 です。

最初の授業で配ったプリント（その13, 14, 15）を主に参照してください。

教育は教師—生徒（子ども）関係や親子関係のように、上下の関係の中で行われることが多いのですが、横の関係、つまり友人やクラスメイトとの関係の中で行われることも多くあります。

皆さんが小中高校時代のことを思い出してみても、友人やクラスメイトから学んだことや影響を受けたことは大きかったと思います。

学校選び、大学選びもそこで出会う友人の特質を考えてのことが多いのではないのでしょうか。（教育や教員の質はどこの学校や大学でもそんなに変わりません）。

生徒（子ども）達は、学校で一緒に過ごす時間が長く、そこでの相互作用（人間関係）を通して、ある特異な文化（行動様式や価値観、サブカルチャー）が生まれ、そこから影響を受けます。

大学生に出身高校名を聞くと、何となく納得してしまう（「××高校の校風からこのような特質を身に付けたのだな」と感じる）ことはあると思います。

（各高校の文化の違いに関しては、冊子のⅢ-13、pp38-39参照してください。）

同じ高校の中にも、いろいろな友人グループがあって、それぞれ特異な文化（行動様式、サブカルチャー）があると思います。

それを私は昔、高校生に対する調査から「勉強型」「遊び型」「逸脱型」「孤立型」という生徒文化を抽出したことがあります（配布資料13,14,15を参照してください）。

女子高には、「勉強グループ」「オタッキーグループ」「ヤンキーグループ」「一般グループ」の4つが存在していると観察から指摘した人もいます（授業資料12-1）。

ただ、この生徒文化の類型やグループは、昔のものなので、皆さんの中高時代のものとは違うかもしれません。それに対してはコメントして下さい（新しい生徒文化に関して教えて下さい）。

この生徒文化（サブカルチャー）は、教師が生徒に期待するもの一致する場合がありますが（「勉強型」）、それに真っ向から対立するもの（「逸脱型」）、別の価値を提示するもの（「遊び型」）などで、分かれます。

それに、「教員は大人の文化を生徒に押しつけようとするのに対して、生徒は子ども集団に特有な文化の代表者としてこれに対抗するのである」(Waller,1,932)とも言われています。

生徒は教師に従順であればいいわけではありません。それでは、生徒の自立性や主体性は育ちません。

時代の流行や消費社会の特質を取り入れるのは、大人や教師より児童・生徒の方が早いかもしれません。児童・生徒はそのような時代の先端を一早く取り入れ、自分たちの文化として楽しんでいるのかもしれませんが。そのような先端の部分に関しては、教師が生徒に教わる立場にあるのかもしれません。

今回の課題は、授業資料や配布資料(冊子ではプリント)を読んで、生徒文化(子ども文化)について、あなたの考えを書きなさい、というものです。

具体的には、① 生徒文化(子ども文化)とは何か。 ② 生徒文化はなぜ生じるのか ③ 生徒文化にはどのようなもの(タイプ)があるか ④ 生徒文化にはどのような機能(はたらき)があるか ⑤ 教師は生徒文化にどのようにかかわればいいのか 等です。

解答は 200~1000字で、KCNの「管理 送付」から 送って下さい。